

『善<sup>よ</sup>かれ』

R 5. 2. 28

「あれ、今朝は何かあるのかな?」。毎朝、玄関に立っているとおよそどの時間帯に誰が登校するかがわかります。今朝、いつもとは違って早く登校する生徒がいました。しばらくして、玄関先に戻ってきたのは手に募金箱を持った3人の生徒。そこで、ようやく思い出しました。昨日のお昼の時間、校内放送で2学年委員会がトルコ・シリア大地震の募金を呼び掛けていたことを。

その生徒が教えてくれました。「この地震で5万人以上の方が亡くなっているんですよ!」。まるで自分に災難が降りかかったような口ぶりです。

彼らは、玄関先で二手に分かれ、募金への協力を大声で呼びかけます。ぽつりぽつりと募金する生徒が現れましたが、多くの生徒は通り過ぎていきます。「余計なお金は持ってこないようにと指導しているからなあ。」と思って見ていました。

すると2年の生徒が募金箱を持つ友達に近づいて、「ごめん、忘れとった!これ明日もやっとする?」と聞いています。「今週いっぱいやっとするよ。」「ああ、じゃあ明日持ってくるわ。」

そんな会話を聞きながら、文部科学省作成の中学校道徳読み物資料「空と海 ― 檜野<sup>かしの</sup>の人々―」を思い出していました。今から18年前、イラン・イラク戦争でイランに取り残された日本人をトルコ政府が派遣した救援機が救出したこと。さらにその95年前、和歌山県南端の檜野崎灯台近海で遭難したトルコ船エルトゥール号の船員を檜野の人々が懸命に救助し、なけなしの食糧を精一杯与えて手当てしたことなどが綴られています。詳しくは資料名で検索してお読みください。

本校生徒会四本柱の一つは「ボランティア」です。かつては奉仕活動とも言ったその精神は、自分以外の誰かのために「善かれ」ということをするということではないでしょうか。たまには「善かれと思ってしたことが」裏目に出ることもあるかもしれませんが、一生懸命他の人のことを想って起こす行動は尊いと思います。それが遠く異国の地の人々のことであればなおさらのこと。

トルコ、シリアの人々、ウクライナの人々、ロシアを含む紛争で亡くなった人々のご家族。いろいろな人々に想いを馳せ、「善かれ」ということを実行できたら、と思います。

花壇に現れたチューリップの芽。  
被災地や紛争地域にいる人々は、春を感じる余裕があるのでしょうか。

